



群馬県立心臓血管センター第10回登録医大会
にご出席いただき、誠にありがとうございました！
今後とも、当センターの地域医療連携にご支援を
賜いますよう、よろしくお願い申し上げます。
2016.10.17(月)開催 【於：前橋デルサ】

～平成29年1月現在の外来担当医師を別紙外来担当医一覧表にてご案内いたします～

《お問い合わせ先》

群馬県立心臓血管センター 〒371-0004 群馬県前橋市亀泉町甲3-12
担当 地域医療連携室 ☎ 027-269-7455 (内線2040・2041)
FAX 027-269-7286
ホームページ <http://www.cvc.pref.gunma.jp>



群馬県立心臓血管センター 地域医療連携室たより

第43号 平成29年1月 発行

～当センターは“地域医療支援病院”です～



《目次》

- 地域医療連携室より新年御挨拶
- 入院支援センター開設のお知らせ
- 年頭の御挨拶
- 年頭にあって
- 「群馬県立心臓血管センター第10回登録医大会」のご報告

入院支援センター看護師長 前川 端穂
院長 大島 茂
地域医療連携室長 安達 仁

新年 あけましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願いいたします



◆入院支援センター開設のお知らせ◆

入院支援センター看護師長 まえかわ みずほ
前川 端穂

平成28年12月1日より、入院支援センターを開設致しましたので紹介させていただきます。

入院支援センターは、予定入院検査や手術に対して、検査・手術決定後から入院まで十分な説明や心のケアを行うことを目的に、5階に待合室・面談室3室・説明室を設置しました。待合室は、赤城の山々を見渡せる景色の良いところです。面談室3室は、プライバシーに配慮し個室になっています。



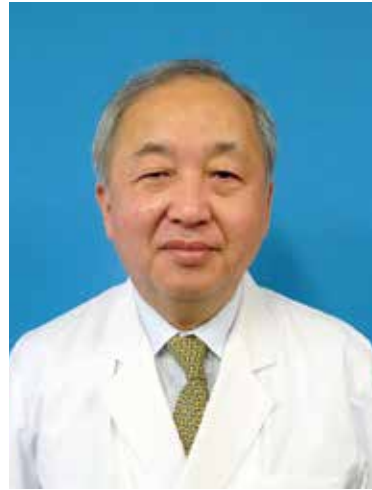
【入院支援センターの役割】

1. 手術決定から入院まで十分な説明をすることにより、患者の不安の軽減を図る。
2. 予定入院患者の術前検査説明・術前オリエンテーション・基本情報の収集を実施する。
3. 薬剤師と連携して服用薬を確認し、入院前に必要な対応を行う。
4. 医事課と連携し入院費などの費用相談を実施する。
5. 入院前から患者の情報を得ることにより、退院支援に早期に取り組み実施する。



年頭の御挨拶

院長 おおしま しげる 大島 茂



平成 29 年年頭に当たり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
旧年中は群馬県立心臓血管センターとの地域医療連携にご協力いただき、
ありがとうございました。本年も宜しく願いいたします。

平成 28 年、心臓血管センターでは許可病床数の削減（7 月）、電子カル
テの全面更新（8 月）、入院支援センターの開設（12 月）などを実施しまし
た。

近年、虚血性心疾患の経皮的冠動脈形成術（PCI）、不整脈のカテーテル
治療に加え、経皮的動脈弁置換術（TAVR）、大動脈瘤ステントグラフト留置術など、カテーテル治療
の進歩によって心血管治療は低侵襲化傾向が顕著であり、平均在院日数の短縮により入院者数は減少して
いないものの、病床利用率は減少傾向が続いていました。そこで当センターでは、病床利用率の低下に対
応しかつ効率的な看護配置にするため、7 月から 1 病棟を休棟して 45 床削減し、許可病床を 195 床とし
ました。例年心疾患患者の入院が多くなる 10 月から 3 月頃までの状況も踏まえての病床削減であるため、
登録医の皆さんからの入院依頼には十分対応できるものと考えています。

入院支援センターは入院予約症例へのサービス向上のために設置しました。これによって土日入院など
もこれまでよりも容易になると考えています。12 月にオープンしたばかりですので、まずは一部の検査
入院症例から開始し、徐々にその範囲を広げていく予定です。

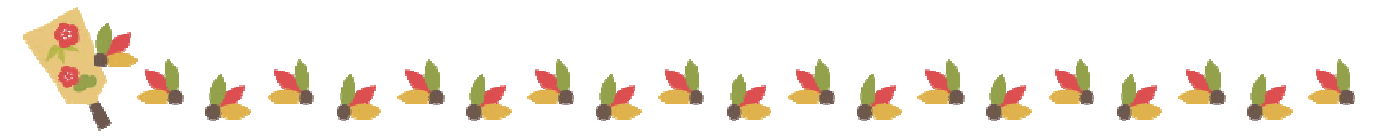
また、4 月の熊本地震に際しては医師、薬剤師、看護師 2 名、事務の 5 名からなる救援チームを阿蘇医
療センターへ派遣しました（4 月 24～29 日）。

平成 28 年、心臓血管センターで施行した県内第 1 例目の治療としては、自己拡張型システムによる
TAVR（2 月）、完全皮下植込み型除細動器（3 月）、ホットバルンによるカテーテルアブレーション（6
月）等がありました。心臓血管センターでは 24 時間心疾患救急医療体制による治療から心臓リハビリテ
ーションによる慢性期心疾患患者の再発予防、冠危険因子を有する方々を対象にしたヘルスアップ教室に
よる初発予防まで循環器疾患に幅広く対応していますが、先進的な医療にも今後も積極的に取り組んでい
く所存です。

本年も、登録医の先生方との良好な連携を維持しつつ
患者本位の医療を提供するとともに、病診連携症例検討
会、その他の研究会などを通して一緒に勉強する機会を
多くしていきたいと考えています。

先生方の一層のご発展を祈念して平成 29 年年頭の挨
拶とさせていただきます。

謹賀新年



年頭にあって

地域医療連携室長 あだち ひとし 安達 仁



謹んで新年のお慶びを申し上げます。
昨年中は群馬県立心臓血管センターとの連携に多大なるご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。

地域医療連携室では、症例とミニレクチャーで構成する症例検討会、国
内の著名な講師をお呼びして講演を頂く学術講演会、年に 1 回の登録医大
会、さらに救急隊との勉強会を開催しており、毎回先生方におかれまして
は、お忙しい中ご出席頂き感謝申し上げます。今後も、先生方のお役にたつ内容を企画してまいりたいと
思っております。

患者紹介率も、おかげさまで 70・80%、逆紹介率は 120%程度と、比較的安定した水準を維持しており
ます。今後、さらに開業の先生との二人主治医制を周知させて、皆様の後方支援ベッドとしての機能を拡
充するとともに、日本の最高水準の医療を実践する施設に紹介してもらえたとされる施設として機能し
てゆきたいと思っております。

昨年の登録医療機関数は 536 施設、登録医数は 716 名と、相変わらず多数のご施設・先生方にご参加
いただいております。当院と連携しているということで、日常診療に安心感を持って頂いているという気
持ちの表れと受けとめ、気を引き締めて仕事を続けてゆきたいと思います。

昨年、日本心不全学会は「高齢者心不全治療に関するステートメント」というものを作成し、筆者も構
想・執筆に関わらせて頂きました。そのエッセンスは、高齢者の心不全は多くの併存症を抱えていて病態
が多彩なため、他の年齢層の患者よりも検査すべきポイントや治療手技が複雑かつ多彩になるとともに、
社会的背景を考慮して心機能のみを改善させれば済むものではないというものです。高齢者心不全は確実
に増加しており、当院でも 80 歳以上の心不全患者が増加しております。そのような患者に、「心臓だけ
治しておきました、後はよろしくお願いします」という医療で済むわけがありません。退院後のことを入
院時から意識して、近医の先生方とともに治療の目標を考えていく時代となっております。この点で、病
診連携はさらに進歩し、もはや「病診一体」とでも名付けられるくらいの関係性を作る必要があります。
また、他の病院の循環器内科とも連携して、群馬県全体でそれぞれの病院の機能分担を考える必要がある
ものと思っております。

今年も、いろいろと連携の会を企画致します。連携施
設が、みな顔の見える位置に近づき、躊躇することなし
に紹介しあえる関係になっていきたいと思っております。

今年もよろしくお願い申し上げます。

